

料金後納
ゆうメール



おかげさまで8周年！

おかげさまで8周年！



謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素は格別のお引き立てを頂き、厚く御礼申し上げます。



さて、お陰様で12月1日をもちまして
創業8周年を迎えることができました。
ここまでこれましたのも、ひとえに皆々様のお陰と深く感謝申し上げます。



今期も基本に忠実に、そして新しいことに
チャレンジしながら皆様のお役に立てます
よう努力して参りますので何卒ご指導、
ご支援賜りますようお願い申し上げます。

敬具

2016年12月1日
株式会社アレックス
社員一同



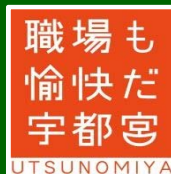
<冬季休業のお知らせ>

2016年12月28日～2017年1月4日

【差出人・返還先】

株式会社 **アレックス**

住所 宇都宮市岩曾町1120-3
TEL 028-601-9055
FAX 028-601-9056
HP <http://www.arex.ne.jp/>



今お使いのWiFi、いつ購入したものでしたか？

WiFi(無線LAN)を使ってインターネットをする機会は増加傾向にあります。社内でもipadなどタブレットやノートパソコンをWiFi接続している環境も少なくないかと思います。特に持ち運び用の機器はWiFiが欠かせません。このWiFiですが、使うには「無線ルーター」や「アクセスポイント」と呼ばれる電波を飛ばす機器が必要になります。この電波にはいくつか種類(規格)があり、古い機種ですと最新のPCやタブレットと相性が良くなかったりします。

WiFi無線の種類 ～電波の種類を理解して、使い分ける！～

電波は大きく分けて2種類がありますので、下記イメージをご覧ください！



無線 a

【a】という種類は、他の電波の干渉を受けにくい、電波の飛ぶ距離が短い(障害物があると更に短くなる)。また、屋内でしか使用できない(屋外で使用するには免許が必要。)

無線 g

【g】という種類は、他の電波の干渉を受けやすいが、電波の飛ぶ距離が長い(壁などの障害物にも強い)。屋内外で使用できる。(bという似た種類の電波もありますが、現在はgが主流です。)

電波にはこのように2種類があり、無線ルーターの近くで使うのであれば【a】の方が良いです。例えば自宅で1階から2～3階に電波を飛ばしたいのであれば【g】のほうが電波が飛びやすいです。【g】は電子レンジや他の無線機器(無線キーボードマウスなど)と電波が干渉する場合があるので、【a】で接続できるのであれば、なるべく【a】の方が良いかと思えます。

インターネット、Youtubeなどの動画閲覧、各種データのダウンロードなど、無線機器には知らず知らず負荷がかかっています。長年使っている物であれば見直してみてもいいかもしれません。

最新のWiFi無線規格

無線ルーターの箱に、**11ac対応**とか、**n/a/g**というような記載があります。単なる【a】と【g】というは無くなってきており、【ac】【na】【ng】などと表記されています。よく見れば、必ず【a】と【g】の文字がありますので、2種類の電波が使えると分かります。逆に【a】の表記がない機種も売っています(gしか記載がない)。これは電波が1種類しか使えないことを意味しますが、価格帯が安めに設定されています。今買うなら、少し高くてもすべて記載されているものがベストです。**※もちろんながら、パソコンやスマホ側も対応していないと電波を使えないので、注意です！**

1ポイント

◆無線ルーターとは？

インターネットを利用するために必要なプロバイダを登録したり、インターネットの出入り口になる機器をルーターと言います。このルーターに電波を飛ばす役割のあるものが無線ルーターです。

◆アクセスポイントとは？

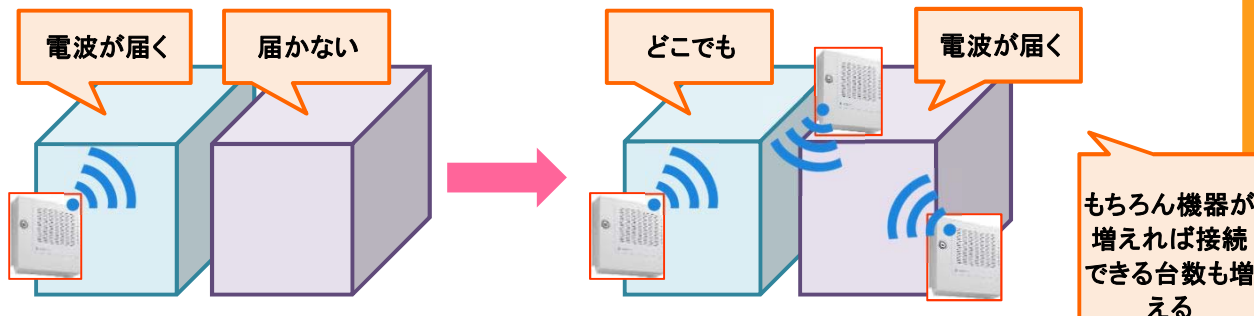
ルーターとは異なり、電波を飛ばすだけの機器をアクセスポイントと言います。有線LANで使うHUBの”無線版”のようなものです。また、無線ルーターにはスイッチがついていて、アクセスポイントとして切り替えて使えるものもあります。

無線で接続できる台数には上限がある？

無線機器のパッケージを見ると、上記にあった「aやg」の他にも、「使用人数〇人まで」などと記載されています。これは、その無線機器に接続できる端末(パソコンやスマホなど)のおよその上限を示しています。例えば、1人はパソコンとスマホ、もう1人はパソコンとタブレットとゲーム機のように何”台”ではありません。量販店で販売しているものは家庭向けが多いので、大体一家庭で使用できるものが多いです。もちろんそれ以上の台数の機器を接続しても問題ないこともありますが、接続台数が少なくても接続が不安定になったり、途切れてしまったりする場合があります。

企業・法人向けの無線機器は何十人までというように、家庭向けより接続できる上限の大きいものが主流です。また、接続できる人数や電波の届く範囲を広げるために、無線機器を複数台連結させたりできるものもあります。

<例>



使用環境に合わせたWiFi導入で、快適なインターネットを！